

## 第30回オリンピック・ロンドン大会を終えて

新体操強化本部長  
山崎浩子

昨年の第30回オリンピック・ロンドン大会では団体総合7位で、12年ぶりの決勝進出および入賞を果たすことができた。

2009年12月からロシア・サンクトペテルブルグに強化拠点を移し、ロシア人コーチの指導による長期強化合宿を行ってきたが、チーム結成から2年半でおおむね合格点の結果を残すことができたと言える。最初は「団体とは何か」を知ることから始まり、新体操のイロハを学び直し、異国での共同生活と世界最高峰の指導で選手たちは大きな成長を遂げた。また世界のトップの選手たちと一緒に練習をしたことで、目から入る情報・刺激も素晴らしいものがあった。おかげでオリンピック本番でも、メダルにこそ手が届かなかったが、日本はいまの持てる力は十分に発揮できた。

しかし、力を出しても7位という現実があることも受け止めなければならない。今回、難度点は最高9.2まで上がった。これはひとつひとつの難度のレベルを上げるというより、審判員に認められやすい難度にレベルダウンし、それを正確に行うことに徹したことによる。今季からルールが変更されることを考えると、レベルダウンするのではなくレベルアップしたものを正確にこなすことが、今後は重要になるであろう。

手具の投げ受けの正確性に関しても、決勝ではうまく「はまった」が、練習では決して安定感があるとは言えなかった。今後、より上位に位置するには、ピンポイントで投げられる技術が必要となり、そのためには再度基本に戻り、基礎練習を積んでいくべきである。

ロシアでの強化合宿で表現力は増した。が、外国勢の表現力とはまだ差がある。特に、顔の表情だけではなく、体全体を使った、幅のある深みのある表現力は、もっともっと取得していかなければならないであろう。

ロシアでの練習内容やトレーニング内容は、日本とさほど変わらない。新しいトレーニング方法などは、日本の方が勝っているかもしれない。だがロシアを始めとした上位国は、その内容を徹底的に正しくやっている。そこが日本との違いではないだろうか。「やるべきことをきちんと行う」ことこそが、もっとも重要なことであると考えられる。

個人総合においては、日本は出場することができなかったが、同じアジア圏の韓国のSON Yeon Jaeがすばらしい頑張りを見せた。決勝では3種目を28点台に乗せ、ボールとリボンにロシアのEvgeniya KANAeva、Daria DMITRIevaに次いで3位に位置した。総合の結果は5位であったが、クラブでのミスがなければメダルを獲っていたことであろう。

SON選手は特別な身体能力を持ち合わせているとは思わないが、自分のプログラムを最大限に正確に行うという点では、誰よりも優れている。彼女もまたロシアで練習を続けていたが、この結果を得るまでの努力は並大抵のものではなかったろう。

日本の個人競技は北京・ロンドンと2大会連続でオリンピックには出場できなかった。団体競技に特化して強化を行ってきたことの歪みであるとも思うが、ここで大胆な強化を行わなければ、リオオリンピックの出場も難しいと考える。

リオに向けてはターゲット世代を集中強化し、団体と個人両輪でのパワーアップを図っていかなければならない。

## 2013 年強化指針

- 強化方針：①団体競技はフェアリージャパン POLA メンバーの強化を続行する。  
②個人競技はリオオリンピック、その次のオリンピックも視野に、中長期的な強化を行う。

### 【団体強化】

(1) 目 標

- ①リオオリンピックの目標 3 位以内 (メダル獲得)
- ②本年の目標 (第 32 回世界新体操選手権決勝進出)

(2) 強化方法

フェアリージャパン POLA メンバーの入れ替えを行った上で、チームを引き続き強化。ロシアと JISS での長期集中強化合宿で、チームの再構築を図る。

### 【個人強化】

(1) 目 標

- ①リオオリンピック決勝進出
- ②本年の目標 (第 32 回世界新体操選手権 15 位)

(2) 強化方法

- ①ターゲット世代 (1997 年生まれ以降) の強化
- ②ターゲット世代特別強化選手の、集中強化体制の整備 (ロシア留学、長期強化合宿等)

【平成 25 年 新体操強化選手】

<第 9 期フェアリージャパン POLA メンバー>

氏名	フリガナ	歳	所属
松原梨恵◆	マツバラ リエ	19	国土舘大学 ALFA
サイド横田仁奈◆	サイドヨコタ ニナ	19	国土舘大学 ふじしま新体操クラブ
深瀬菜月◆	フカセ ナツキ	18	光明学園相模原高等学校 秋田新体操クラブ
畠山愛理◆	ハタヤマ アイリ	18	大原学園高等学校 東京ジュニア新体操クラブ
加畑碧	カハタ ミドリ	17	桐朋女子高等学校 町田RG
杉本早裕吏	スギモト サユリ	17	名古屋経済大学市邨高等学校 みなみ新体操クラブ
国井麻緒	クニイ マオ	16	日大山形高等学校 山形RG
宮本望来	ミヤモト ミク	15	大原学園高等学校 イオン
熨斗谷さくら	オビタニ サクラ	15	大田区立大森第三中学校 コナミスポーツクラブ本店

◆第 6 期～8 期フェアリージャパン POLA メンバー

<団体補充候補 練習生>

氏名	フリガナ	歳	所属
横田葵子	ヨコタ キコ	15	墨田区立両国中学校 安達新体操クラブ
竹中七海	タケナカ ナミ	13	名古屋経済大学市邨中学校 みなみ新体操クラブ

<平成 25 年 特別強化選手名>

氏名	フリガナ	歳	所属
皆川夏穂	ミガワ ナツホ	15	千葉県立真砂中学校 イオン
早川さくら	ハヤカワ サクラ	15	大原学園高等学校 イオン
喜田純鈴	キタ スミレ	11	坂出市立坂出小学校 エンジェルRGカガワ日中

<平成 25 年 強化選手名 トライアウト最終選考通過者>

氏名	フリガナ	歳	所属
河崎羽珠愛	カサキ ウズメ	15	千葉市立高洲第一中学校 イオン
古井里奈	コイ リナ	14	小牧市立小牧中学校 チェルシーRGC
横山あかね	ヨコヤマ アカネ	14	つくば市立高崎中学校 飛行船新体操クラブ
横山美希	ヨコヤマ ミキ	13	松本市立旭町中学校 Wing まつもとRG
立澤孝菜	タシザワ タカ	13	松本市立女鳥羽中学校 Wing まつもとRG
小林秀圭	コバヤシ シュウキ	13	各務原市立川島中学校 NPOぎふ新体操クラブ
大西亜実	オホニ アミ	13	三田市立狭間中学校 宝塚サニー新体操クラブ
植松桃加	ウエマツ トモカ	13	宇多津町立宇多津中学校 エンジェルRGカガワ日中
鈴木歩佳	スズキ アユカ	13	安八町立登龍中学校 NPOぎふ新体操クラブ
藤井雅	フジイ ミヤビ	13	羽村市立羽村第一中学校 ピュアR・G
柴山瑠莉子	シバヤマ ルリコ	12	船橋市立海神小学校 イオン
大岩千未来	オイワチ キミ	11	野田市立川間小学校 飛行船新体操クラブ
飯田由香	イイダ ユカ	10	相模原市立双葉小学校 誠心ジュニア新体操クラブ
小池夏鈴	コイケ ナツル	10	千葉市立美浜打瀬小学校 イオン
山田愛乃	ヤマダ アイノ	9	千葉市立幕張南小学校 イオン

\*所属と年齢は平成 25 年 2 月 17 日現在。

## 2013 年 審判指針

FIG13 サイクル審判採点規則は、12 サイクルまでに重く複雑になりすぎていたルールに対し大胆にメスを入れる形で、大きく変更がなされた。

主たる 変更の趣旨は以下のとおりである。

- ① 難度の数を減らし、音楽の個性を重視した構成にする。
- ② 各手具の特徴ある操作を生かす。
- ③ 実施において、減点のポイントを主に 0.1、0.3、0.5 とシンプルにすることで、審判にも判断しやすく、観客にもわかりやすい得点にすること。

以上のことを踏まえ、審判員の数の変更や得点の出し方の変更などが迅速に全国に統一されるよう、対応することが重要と考える。

### [平成 25 年度審判本部目標]

- ① 新ルールの徹底
- ② 審判資質の向上
- ③ 国際審判員の育成

### [審判指針]

- ① 大会における身体難度 D の正確な見極め(許容の廃止)
- ② 実施 E における減点項目の正確な見極め(全国大会における審判の中間点の開きを平均0.30点以内とする…年間目標)
- ③ 実施における重点項目
  - \* 姿勢欠点の減点強化
  - \* 演技構成における論理性の欠如に対する減点強化
- ④ 国内ルールにおける内規の設定

### [具体的対策]

#### ① 研修会の開催

(目的)各全国大会前の研修の規模を広げ、その大会の実務に当たらない審判も同時に研修参加できるようにする。

全国規模の研修の機会を増やすことで、新ルールの迅速な徹底、審判技術の向上を図り、各県・ブロックにおける予選大会でも生かしていただく。

(開催予定日)基本は体操協会主催全国大会事前研修会とし、決定次第、体操協会ホームページにて告知する。

#### ② 国際競技会への審判派遣

(目的1)2014 年 8 月開催ユースオリンピック(YOG)の審判育成

(YOG 審判条件)当該年 8 月大会期間中に 35 歳以下で、第Ⅲカテゴリーを有する者。

・すでに 1 月開催の国際講習会への参加条件を緩和し、該当年齢者は、16 名となっている。

この 16 名に対し、研修及び試験・面接等を実施し、上位 1～3 名について 2013 年中に国際大会(FIG)に 2 回派遣し、第Ⅲカテゴリーを取得できるよう努める。

(目的2)ミドルエイジ国際審判の育成

(条件)今年第Ⅳレベルを取得し、国際大会において日本を代表し、実力を発揮できる審判になる環境にある 50 歳以下の者。国内大会の経験に加え、審判試験等で上位の成績を有するものから若干名選抜し、派遣す

る。

・昨シーズンまでは、ロンドン強化との兼ね合いから、国際大会への参加が少なかった。このことにより、カテゴリーの高い審判を優先して大会に派遣した。結果として、次世代の国際審判の派遣ができず、カテゴリーを上げることが出来なかった。

13サイクルにおいては、このようなことがないよう、計画的に派遣を実施していく。

### [YOG 審判候補]

平成 25 年 1 月に行われた国際審判講習会受講者で、国際試験により第IVカテゴリー取得者のうち34才以下の者。

### [ミドルエイジ国際審判候補]

平成 25 年 1 月に行われた国際審判講習会受講者で、国際試験により第IVカテゴリー取得者のうち 35～50 才の者。

#### <実施を重視する根拠について>

昨年まで、試合前研修において、また、世界のトップクラスの選手の映像を軸に、レベルの段階を変えての比較研修に力を入れてきた。

技術は白か黒しかない。しかし、実施においては、落下のような一目瞭然の減点は得意でも、「姿勢欠点の少ない、スケールの大きな選手」と「勢いはあっても姿勢欠点や無駄足が多い」選手の差がなかなかつけにくいのが現状であったため、世界のトップ選手と 20 位前後、40 位前後の選手、というように段階を追って減点箇所の研修を行ってきた。

今年度、さらに実施に重点目標を置く理由は、大会によつての実施点のばらつきが大きいためである。審判がしっかりと見極める。そのことによつて、選手育成の観点も変わってくるのではないだろうか。そういう点において、日本の審判業務はまだまだ安定していない。

以下、1 月の国際講習における実施担当講師の言葉を引用して、実施を重視する根拠の一端とする。

## 2013 国際講習 講師：ドラガナテルジック氏の講義より抜粋

2005年から2012年まで、FIGプールジャッジとして、またFIGリファレンスジャッジとしての経験を積んできた。

D審判はカテゴリーの高い審判が採用されることから一般的にD審判が重要視されているが、長年の経験から順位を大きく左右するのはE審判の得点であるということが言える。

したがってE審判の得点は非常に重要である。

審判は選手自身そのものである。

審判の目を通して、選手の演技がそのまま数字化されて得点化される機械なのである。

審判に感情はなく、選手の演技がそのまま映し出されるレンズであることを自覚しなければならない。

## 2013 国内内規

#### <重点目標>

- ① 姿勢欠点の減点強化（指針）
- ② 手具操作の巧みさの強化

内規項目	国際	国内	目的
<p>&lt;個人&gt;</p> <p>① マステリー M (0.20)</p>	<p>① 3つ以上の要素があること</p> <p>② ミスなしの実施で、難度の価値を与える一般的なでない技であること</p>	<p>① 3つ以上の要素があること</p> <p>② 3つ以上の要素の実施は0.1以下のミスにおいてカウント</p> <p>③ 実施において(特に投げからの受けに関わる要素の場合) 落下ミスなしで難度の価値を与える</p>	<p>① 国際の規定する「一般的でない技」という定義は曖昧である。審判個々の感覚で認識の差が出るようなルールは現実的でないという考えから、基準に従ったカウントにする。</p> <p>② より面白い(難しい)ことに挑戦する場合、落下の危険が多い割に、価値点が低いため、挑戦しないという方向に流れることが懸念される。積極的に挑戦する環境を作る。</p>

\*内規の適用は、平成25年度日本体操協会の主催する代表決定競技会、全国大会とし、全日本選手権が終わった時点で見直しを行う。

以上